

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	02	01	06	124270	花巻・遠野広域連携事業費	
総合計画	分野	05	行政経営	政策	01 効率的・効果的な行政運営	
	施策	02	機能的な組織運営と人材育成			
目的	広域観光のネットワーク拡充等により花巻市・遠野市間の広域連携を推進する。					
対象	花巻市・遠野市					
意図	2市の強みを生かして効果的・効率的に事業を実施している。					
事業概要	旅行商品造成支援による観光情報発信事業 1,998千円 国内観光客向け旅行商品造成と観光情報の発信を支援 移住定住促進VR作成事業 1,067千円 花巻市と遠野市の実生活を体感できるVR動画を作成 児童・生徒郷土理解促進事業 234千円 花巻市の「まなびキャンパスカード」制度を遠野市まで広域展開（2市の文化施設対象） 観光ルートの景観保全 7,629千円 花巻市と遠野市を結ぶ主要観光ルート沿いの枯死経過木処理 スポーツツーリズムによる地域振興 847千円 市内大学と連携したサイクルモデルツアーの企画・実施					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	旅行商品造成数	本	計画	2.00	3.00	
			実績	5.00	12.00	
2	景観保全に伴う枯損木処理量	m3	計画	250.00	250.00	
			実績	279.66	155.12	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	広域観光客（花巻・遠野・平泉）入込数（暦年）	万人	目標	586.10	587.70	
			実績	574.60	576.64	
2	キャンパスカード利用者数（市外）	人	目標		80.00	
			実績		89.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
好評を博している冬季イベント「はなまき星めぐりの夜（スカイランタン打上イベント）」を活用したツアーを造成したことをはじめ、遠野市との連携により、定住、景観保全、交流人口拡大等各テーマの事業を効率的・効果的に実施することで、相乗効果による成果が表れたもの。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	遠野市との連携を模索する事業のため行政主導で行う必要がある。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	遠野市と様々な事業について連携の推進が図られる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	連携して取り組むことで、各事業の相乗効果が図られる。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	両市で応分の負担割合となっている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価	今年度の振り返り	遠野市と連携することで5つの事業を効率的・効果的に実施することができ、各事業の相乗効果により広域観光客入込数についても順調に推移している。
	次年度に向けて	令和元年度で地域経営推進費の市町村事業の広域連携枠の期間である3年が一区切りとなり、令和2年度より新たな3年がスタートする。早期に遠野市との打ち合わせを実施し、より効果的・効率的な事業展開のための企画立案を行う必要がある。

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名			
01	02	01	06	124280	総合企画アドバイザー活用・連携事業費			
総合計画	分野	05	行政経営	政策	01 効率的・効果的な行政運営			
	施策	02	機能的な組織運営と人材育成					
目的	庁内外の課題解決や活性化のため、人的ネットワークやフットワークを有するアドバイザーと連携した取組を行う。							
対象	庁内、市内企業など							
意図	課題解決や活性化が図られる							
事業概要	総合企画アドバイザー業務 726千円							
	主な業務							
	・ 地方創生							
	・ 農林産物の販路開拓、拡大（6次産業化、農商工連携関連を含む）							
・ 市内企業への企業訪問を通じた企業活性化								
・ 観光PR								
市民参加の有無	対象外							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標			単位	区分	H30	H31	R02	
1	総合企画アドバイザーの来市			回	計画	5.00	5.00	
					実績	1.00	4.00	
2					計画			
					実績			
3					計画			
					実績			
成果指標			単位	区分	H30	H31	R02	
1	課題解決の件数			件	目標	2.00	2.00	
					実績	1.00	1.00	
2					目標			
					実績			
3					目標			
					実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
<p>本事業は、アドバイザーの来市頻度が課題解決や活性化に結びつく性質のため、来市の回数を活動指標に設定した。なお、成果指標は、課題解決の件数で2件とした。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	<p>市政の課題解決や活性化の一助として、外部の視点を取り入れることを企図しているが、その具現化に向けて、市が主体的且つ協働して取り組む必要がある。</p>
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	<p>昨年度下半期から新に取り組んでいる事業であるため、庁舎内外での認知度の向上が不可欠である。</p>
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	<p>必要最小限の経費での実施であるため、削減の余地はない。</p>
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	<p>取り組む内容が限定されていないことから、受益機会は均等である。</p>
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	<p>平成29年度途中（アドバイザーの委嘱は、平成29年7月31日付け）からスタートした事業であるが、現時点において中村アドバイザーが懇意にしている企業と市内企業との連携などの話が進行中であり、これらが具現化することにより市内企業や農業関係者・団体とのさらなる関係の構築や市外、とりわけ首都圏などへのPR拡大が期待される。令和元年度は11月に同氏が主宰する勉強会を都内で開催し、当市のワインや観光施設、行事、イベントについてPRを行った。</p>
	次年度に向けて	<p>次年度も2件の課題解決を達成目標に設定し、花巻市産食材のPR・販促を行っていただくことと、誘致企業情報をいただき誘致に至ることを目標に事業展開を図る。</p>

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	02	01	06	124290	国土利用計画花巻市計画改定事業費		
総合計画	分野	05	行政経営	政策	01 効率的・効果的な行政運営		
	施策	02	機能的な組織運営と人材育成				
目的	社会経済情勢の変化や国土利用計画若手県計画の改定に対応し、将来の土地利用構想の検討を踏まえて国土利用計画花巻市計画を改定するとともに、花巻市都市計画マスタープランの一部を変更する。						
対象	市内の土地						
意図	土地の効率的かつ合理的な利用を促進する						
事業概要	国土利用計画花巻市計画見直し改定、都市計画マスタープラン一部変更 1,364千円 ・国土利用計画花巻市計画見直し改定 平成30年度に作成した国土利用計画花巻市計画改定素案の成案化 （関係機関との協議、パブリックコメント、自治推進委員会・地域協議会の意見の反映等） ・都市計画マスタープラン一部変更 平成30年度に作成した都市計画マスタープラン一部変更素案（国土利用計画の下位計画）の修正						
市民参画の有無	有（パブリックコメント、地域自治推進委員会・地域協議会への諮問、花巻市総合計画審議会への諮問）						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	H30	H31	R02
1	見直し業務委託	件	計画		1.00	1.00	
			実績		1.00	1.00	
2			計画				
			実績				
3			計画				
			実績				
成果指標			単位	区分	H30	H31	R02
1			目標				
			実績				
2			目標				
			実績				
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
事業の性質上、活動実績そのものが成果であることから、成果指標は設定しない。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	現在及び将来における市民の限られた貴重な資源である土地に関し、市レベルで土地利用のあり方を定めた計画の更新であり、市が行うべきものである。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	更新後の計画も必要に応じて適宜見直しを行う。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	各種資料の収集・調査分析はコンサルタント業者への業務委託により行い、委託成果を基にした計画案作成や住民説明等の更新手続きは職員が行うことで、委託と直営の組み合わせにより効率的に実施する。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	私有地を含めた市全体の土地利用計画で、受益者が限定されるものでないため、全額公費負担により実施し、更新後の計画は市民全体で共有する。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価	今年度の振り返り	平成30年度に作成した国土利用計画花巻市計画第二次素案について、パブリックコメントや花巻市総合計画審議会への諮問・答申、花巻市議会の議決を経たうえで、国土利用計画花巻市計画第二次を令和元年9月に決定・公表した。
	次年度に向けて	都市計画マスタープランについては、国土利用計画花巻市計画第二次で示した産業団地整備候補地のうち、優先度を踏まえ、具体性のあるものを位置づけしたうえで改定するものである。